

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	ヨリガナセツテ 公立大学法人富山県立大学									
フリガナ大学の名称	トヤマケンリツテ 富山県立大学大学院									
大学本部の位置	富山県射水市黒河5180番地									
大学の目的	専攻分野に関する専門的な学術の理論及び応用を教授研究することにより、深遠な学識と高度な研究能力とを兼ね備えた有為な人材を育成するとともに、学術文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。									
新設研究科等の目的	現代社会を支える高度なハードウェアやシステムに関する教育研究を行い、幅広い知識及びそれらを総合する能力を有し、創造性に富み、社会の変化に柔軟に対応できる人材を養成する。									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 工学部 電気電子工学科
	工学研究科	年	人	年次人	人			年月年次		
	電気電子工学専攻(M)	2	15	-	30	修士(工学)	工学関係	令和8年4月 第1年次	富山県射水市黒河5180番地	
計		15		30						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>情報工学研究科(令和7年4月届出予定)</p> <p>データサイエンス専攻(M)(14)</p> <p>情報システム工学専攻(M)(24)</p> <p>知能ロボット工学専攻(M)(24)</p> <p>情報工学専攻(D)(4)</p> <p>工学研究科</p> <p>機械システム工学専攻(M)【定員増】(4)(令和8年4月)</p> <p>生物・医薬品工学専攻(M)【定員増】(4)(令和8年4月)</p> <p>総合工学専攻(D)【定員減】(△4)(令和8年4月)</p> <p>工学研究科</p> <p>知能ロボット工学専攻(M)(廃止)(△20)</p> <p>電子・情報工学専攻(M)(廃止)(△27)</p> <p>※令和8年4月学生募集停止</p>									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	工学研究科電気電子工学専攻	講義	演習	実験・実習	計	32単位				
		15科目	3科目	0科目	18科目					
新設	研究科等の名称		専任教員				助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
			教授	准教授	講師	助教			計	
	工学研究科 電気電子工学専攻(M)	人	人	人	人	人	人	人		
		(6)	(8)	(2)	(-)	(16)	(-)	(3)		
	情報工学研究科 データサイエンス専攻(M)	6	3	1	-	10	-	2		
		(6)	(3)	(1)	(-)	(10)	(-)	(2)		
	情報システム工学専攻(M)	5	1	5	-	11	-	2		
		(6)	(1)	(5)	(-)	(12)	(-)	(2)		
	知能ロボット工学専攻(M)	6	8	5	-	19	-	2		
		(6)	(8)	(5)	(-)	(19)	(-)	(2)		
小計	23	20	13	-	56	-	-			
	(24)	(20)	(13)	(-)	(57)	(-)	(-)			
情報工学研究科 情報工学専攻(D)	16	11	-	-	27	-	-			
	(16)	(11)	(-)	(-)	(27)	(-)	(-)			
小計	16	11	-	-	27	-	-			
	(16)	(11)	(-)	(-)	(27)	(-)	(-)			
計	23	20	13	-	56	-	-			
	(24)	(20)	(13)	(-)	(57)	(-)	(-)			

既 設 分	工学研究科 機械システム工学専攻 (M)	8 (8)	7 (7)	3 (3)	- (-)	18 (18)	- (-)	3 (3)		
	環境・社会基盤工学専攻 (M)	7 (7)	11 (11)	2 (2)	- (-)	20 (20)	- (-)	3 (3)		
	生物・医薬品工学専攻 (M)	12 (12)	5 (5)	8 (8)	- (-)	25 (25)	- (-)	3 (3)		
	看護学研究科 看護学専攻 (M)	10 (10)	8 (8)	10 (10)	1 (1)	29 (29)	- (-)	47 (47)		
	小計	37 (37)	31 (31)	23 (23)	1 (1)	92 (92)	- (-)	- (-)		
	工学研究科 総合工学専攻 (D)	31 (33)	31 (31)	1 (1)	- (-)	63 (65)	- (-)	- (-)		
	看護学研究科 看護学専攻 (D)	10 (10)	5 (5)	- (-)	- (-)	15 (15)	- (-)	5 (5)		
	小計	41 (43)	36 (36)	1 (1)	- (-)	78 (80)	- (-)	- (-)		
	計	37 (37)	31 (31)	23 (23)	1 (1)	92 (92)	- (-)	- (-)		
	合計	60 (61)	51 (51)	36 (36)	1 (1)	148 (149)	- (-)	- (-)		
職 種		専 属			そ の 他		計		大学全体	
事 務 職 員		55 (55)			0 (0)		55 (55)		・図書館専門職員(司書)及び守衛は、委託先から職員を派遣  ・その他の職員は自動車運転手	
技 術 職 員		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
図 書 館 職 員		2 (2)			10 (10)		12 (12)			
そ の 他 の 職 員		2 (2)			0 (0)		2 (2)			
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)		0 (0)			
計		59 (59)			10 (10)		69 (69)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	119,939㎡	0㎡	0㎡		119,939㎡				
	そ の 他	89,931㎡	0㎡	0㎡		89,931㎡				
	合 計	209,870㎡	0㎡	0㎡		209,870㎡				
校 舎	専 用	85,577㎡ (85,577㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		計 85,577㎡ (85,577㎡)				
	講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室 54室	実験・実習室 171室	演習室 86室		新設研究科等の専任教員研究室 16室				
図 書 ・ 設 備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
	工学研究科 電気電子工学専攻 (M)	183,209 [40,896] (183,209 [40,896])	4,698 [4,133] (4,698 [4,133])	8,311 [5,422] (8,311 [5,422])	6,239 [4,608] (6,239 [4,608])	5,302 (5,302)	- (-)			
	計	183,209 [40,896] (183,209 [40,896])	4,698 [4,133] (4,698 [4,133])	8,311 [5,422] (8,311 [5,422])	6,239 [4,608] (6,239 [4,608])	5,302 (5,302)	- (-)			
	経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	・教員1人当たり研究費等については、研究科・専攻単位での算出不能なため、学部・学科との合計 ・共同研究費等、図書購入費、設備購入費は大学全体 ・図書購入費には電子ジャーナル、データベース、その他運用経費を含む。	
経費の見積り及び維持方法の概要	教員1人当たり研究費等	図書購入費	90,371千円	89,467千円	88,572千円	-千円	-千円	-千円		
		設備購入費	65,029千円	64,378千円	63,734千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次				
学生納付金以外の維持方法の概要	県内	724千円	536千円	-千円	-千円	-千円				
県外	818千円	536千円	-千円	-千円	-千円					
奨励寄附金、受託研究費、電源立地交付金等の外、不足する分については、富山県の運営交付金を充てる。										

大学等の名称	富山県立大学							所在地			
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率			開設年度	
		年	人	年次人	人		倍				
既設大学等の状況	工学部	4	235	-	940		1.06	平成2年度	富山県射水市黒河5180番地	令和6年度より学生募集停止	
	機械システム工学科	4	60	-	240	学士(工学)	1.05	平成2年度	同上		
	知能ロボット工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	平成18年度	同上		
	電気電子工学科	4	45	-	180	学士(工学)	1.06	令和2年度	同上		
	情報システム工学科	4	-	-	-	学士(工学)	-	令和2年度	同上		
	環境・社会基盤工学科	4	55	-	220	学士(工学)	1.07	平成21年度	同上		
	生物工学科	4	40	-	160	学士(工学)	1.04	平成18年度	同上		
	医薬品工学科	4	35	-	140	学士(工学)	1.08	平成29年度	同上		
	情報工学部	4	160	-	320		1.05	令和6年度	同上		令和6年度開設
	データサイエンス学科	4	40	-	80	学士(データサイエンス)	1.01	令和6年度	同上		令和6年度開設
	情報システム工学科	4	60	-	120	学士(工学)	1.06	令和6年度	同上		令和6年度開設
	知能ロボット工学科	4	60	-	120	学士(工学)	1.07	令和6年度	同上		令和6年度開設
	看護学部	4	120	-	480		1.00	平成31年度	富山県富山市西長江2丁目2番78号		
	看護学科	4	120	-	480	学士(看護学)	1.00	平成31年度	同上		
	大学院工学研究科		118	-	246		1.36	平成6年度	富山県射水市黒河5180番地		
	(博士前期課程)		108	-	216		1.43				
	機械システム工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.55	平成6年度	同上		
	知能ロボット工学専攻	2	20	-	40	修士(工学)	1.60	平成18年度	同上		
	電子・情報工学専攻	2	27	-	54	修士(工学)	1.40	平成18年度	同上		
	環境・社会基盤工学専攻	2	15	-	30	修士(工学)	0.96	平成25年度	同上		
	生物・医薬品工学専攻	2	26	-	52	修士(工学)	1.53	平成8年度	同上		
	(博士後期課程)		10	-	30		0.86				
	総合工学専攻	3	10	-	30	博士(工学)	0.86	令和3年度	同上		
	大学院看護学研究科		12	-	22		1.04	令和5年度	富山県富山市西長江2丁目2番78号		
	(博士前期課程)		10	-	20		1.05				
	看護学専攻	2	10	-	20	修士(看護学)	1.05	令和5年度	同上		
	(博士後期課程)		2	-	2		1.00				
看護学専攻	3	2	-	2	博士(看護学)	1.00	令和7年度	同上	令和7年度開設		
附属施設の概要	該当なし										

(注)

- 1 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																	
（工学研究科電気電子工学専攻（博士前期課程））																	
科目	区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		（助手を除く） 基幹教員以外の教員
必修	教養	高度実践英語	1前	/	2			○							1		
		科学技術論	1後		2			○							1		
		小計（2科目）	—		—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	2	
MOT		技術経営概論	1前	/	2			○							1		
		小計（1科目）	—		—	2	0	0	—		0	0	0	0	0	1	
		電子デバイス工学基礎	1前		/	2			○		2	3					
光・電波・システム工学基礎	1前	2				○		2	1							オムニバス	
電子工学データ処理・解析基礎	1前	2				○		3	1							オムニバス	
専門基礎		小計（3科目）	—	—	0	6	0	—		4	7	1	0	0	0		
		電子デバイス工学	1前	/	2			○		1	1	1					オムニバス ※演習
		集積回路特論	1前		2			○		1	1						オムニバス
パワーデバイス工学	1前	2				○		1	1						オムニバス		
ナノマテリアルデバイス特論	1前	2				○		2	2						オムニバス		
機能材料物性特論	1後	2				○		1	1						オムニバス		
量子マテリアル工学	1後	2				○		1	1						オムニバス		
選択		小計（5科目）	—	—	0	10	0	—		4	5	1	0	0	0		
		電子デバイス工学	1後	/	2			○		1	1						オムニバス
		システム制御論	1後		2			○		1	1						オムニバス
光計測工学	1後	2				○		1	1						オムニバス		
通信工学特論	1後	2				○				1							
必修	演習・研究	電気電子工学特別演習Ⅰ	1通	/	2			○		6	8	2					
		電気電子工学特別演習Ⅱ	2通		2			○		6	8	2					
		電気電子工学特別研究	1～2通		8			○		6	8	2					
必修		小計（3科目）	—	—	12	0	0	—		6	8	2	0	0	0		
		合計（18科目）	—	—	18	24	0	—		6	8	2	0	0	3		
		学位又は称号	修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。										1学年の学期区分		2期					
										1学期の授業期間		15週					
										1時限の授業の標準時間		90分					

- (注)
- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
  - 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学期の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合は、この書類を作成する必要はない。
  - 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
  - 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
  - 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
  - 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
  - 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
  - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
  - 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
  - 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
    - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
    - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
    - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
  - 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																		
基礎となる学部等（工学部電気電子工学科）																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外（助手を除く）の教員		
教養科目	人間	教養ゼミⅠ	1前	/	1				○							31	オムニバス	
		教養ゼミⅡ	1後		1				○							31		
		日本事情Ⅰ	1前		2				○									1
		日本事情Ⅱ	1後		2				○									15
		小計（4科目）	—		—	4	2	0	—	—	—	—	—	—	—	—		32
	技術・経済	経済学Ⅰ	1前・後	/		2			○								1	
		経済学Ⅱ	2前・3後		2			○									1	
		経済学Ⅲ	2後		2			○									1	
		科学技術と社会	3前		2			○									1	
		科学技術史	1・2後		2			○									1	
	小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—		
	社会・法律	社会学Ⅰ	1前・後	/		2			○								1	
		社会学Ⅱ	2後		2			○									1	
		コミュニケーションの社会学	3前		2			○									1	
		法学Ⅰ	1前・3後		2			○									1	
		法学Ⅱ	2・3前		2			○									1	
		日本国憲法	3前		2			○									1	
	小計（6科目）	—	—	0	12	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—		
	環境	富山と日本海	3前	/		2			○								12	オムニバス
		環境論Ⅰ	2前・後		2			○									12	オムニバス
		環境論Ⅱ	2前・後		2			○									6	オムニバス
		小計（3科目）	—		—	0	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	25	—
	言語・文化	日本語表現法	1前・後	/	2				○								2	
		コミュニケーション論	2・3前		2			○									1	
		文学Ⅰ	2前・後		2			○									1	
		文学Ⅱ	3後		2			○									1	
		比較文化学Ⅰ	1前・後		2			○									1	
		比較文化学Ⅱ	2後・3前		2			○									1	
近現代史		3前	2				○									1		
国際関係論		3前	2				○									1		
海外留学科目（中国）		1・2・3・4休	2				○									1	集中	
海外研修科目（米国）		1・2・3・4休	1						○							1	集中	
海外研修科目（マレーシア）		1・2・3休	1						○							1	集中	
小計（11科目）	—	—	2	18	0	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—			
精神・身体	健康科学演習	1前・後	/	1				○								3	共同	
	心理学Ⅰ	1前・後		2			○									1		
	心理学Ⅱ	2前・後		2			○									1		
	心理学Ⅲ	3前		2			○									1		
	倫理学	2前		2			○									1		
	哲学	2後		2			○									1		
	健康科学Ⅰ	1前・後		2			○									2		
	健康科学Ⅱ	3前・後		2			○									1		
小計（8科目）	—	—	1	14	0	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—			

# 教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等（工学部電気電子工学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
基礎科目	数学Ⅰ	1前	/	2			○								1	共同 共同
	数学Ⅱ	1後		2			○								1	
	物理学Ⅰ	1前		2			○								1	
	物理学Ⅱ	1後		2			○								1	
	化学Ⅰ	1前			2			○							1	
	化学Ⅱ	1後			2			○							1	
	生物学	1後			2			○							1	
	数学演習	1後			1				○						1	
	物理学Ⅰ演習	1前			1				○						1	
	物理実験	1前・後			1					○					4	
	化学実験	1後			1					○					2	
	基礎数学	1前				1		○							2	
	基礎物理学	1前				1		○							2	
	小計（13科目）	—		—	—	10	8	2	—	—	—	0	0	0	0	
教養科目	外国語科目	英語基礎1	1前		1			○							8	集中
		英語基礎2	1前	1				○							5	
		英語基礎3	1後		1				○						8	
		英語基礎4	1後	1					○						5	
		総合英語1	2前		1				○						8	
		総合英語2	2前	1					○						10	
		総合英語3	2後		1				○						8	
		総合英語4	2後	1					○						10	
		英語特別演習1	3前		1				○						6	
		英語特別演習2	3前		1				○						5	
		英語特別演習3	3後		1				○						6	
	英語特別演習4	3後		1				○						6		
	英語資格試験対策ゼミ	1・2・3・4前・後		1				○						1		
	海外語学研修科目	1・2・3・4休		1				○						1		
	ドイツ語Ⅰ	1前		1				○						2		
	ドイツ語Ⅱ	1後		1				○						2		
	中国語Ⅰ	1前		1				○						3		
	中国語Ⅱ	1後		1				○						3		
	英語入門1	1前		1				○						1		
	英語入門2	1後		1				○						1		
	日本語Ⅰ	1前		1				○						1		
	日本語Ⅱ	1後		1				○						1		
小計（22科目）	—	—	—	7	15	0	—	—	—	0	0	0	0	0	28	—
データサイエンスリテラシー科目	データサイエンスリテラシー	1前		2			○					1				
小計（1科目）	—	—	—	2	0	0	—	—	—	0	0	1	0	0	0	—
キャリア形成科目	キャリア形成論	1～3		1				○							1	
小計（1科目）	—	—	—	1	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	1	—
専門科目	専門基礎科目	確率・統計学	1前		2		○									共同
		線形代数1	1前		2		○			1						
		線形代数2	1後		2		○				1					
		微分方程式論	1後		2		○				1					
		ベクトル解析	1後		2		○				1					
		複素解析・フーリエ解析	2前		2		○				1					
		計測工学	2前		2		○				1					
小計（7科目）	—	—	—	0	14	0	—	—	1	5	0	1	0	0	—	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

基礎となる学部等（工学部電気電子工学科）

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員		
専門 科目	論理回路	1前			2		○				1							
	電気回路 1	1後		2			○				1							
	電気回路 1 演習	1後		1				○			1							
	電気回路 2	2前			2		○				1							
	電子回路 1	2後		2			○			1								
	電子回路 2	3前			2		○			1								
	電気電子回路設計	2後		2			○			1								
	電子物性	2前			2		○			1								
	半導体基礎	2後		2			○				1							
	電磁気学 1	2前		2			○				1							
	コンピュータ基礎	1後			2		○				1	1						
	プログラミング 1	2前		2			○					1						
	プログラミング演習 1	2前		1				○					1					
	プログラミング 2	2後			2		○					1						
	スペクトル解析	2後			2		○			1								
	基礎数値解析	3前			2		○			1								
	応用数値解析	3前			2		○				1							
	信号処理工学	3前			2		○				1	1						
	電気電子工学概論	1前		2			○			1	1							
	電波・電気通信法規	4前			2		○			1								
	技術英語	3前			1			○								1		
	技術者倫理	3前		2			○			1								
	トピックゼミ	2前		1				○		1	4							
	プレゼンテーション演習	3前		1				○		4	7	2						
	卒業研究 1	3後		4				○		4	7	2						
	卒業研究 2	4通		8				○		4	7	2						
	電気電子工学実験 1	2後		2					○	1	3	2	1					
	電気電子工学実験 2	3前		2					○	1	4							
	電気電子工学実験 3	3後		2					○	1	3							
小計 (29科目)		—	—	36	25	0	—	—	4	7	2	1	0	3	—			
専門 科目	パワーエレクトロニクス基礎	2後			2		○				1							
	パワーエレクトロニクス応用	3後			2		○				1							
	半導体素子工学	3前			2		○				1							
	センサ工学	3後			2		○				1							
	集積回路工学	3後			2		○					1						
	電子材料	3前			2		○				1							
	基礎制御工学	2後			2		○				1		1					
	応用制御工学	3前			2		○				1		1					
	電磁気学 2	2後			2		○				1							
	光波工学	2後			2		○				1							
	高周波電磁波工学	3後			2		○			1								
	ネットワーク工学	2後			2		○					1						
	通信方式	3前			2		○			1								
	電波工学	3後			2		○			1								
小計 (14科目)		—	—	0	28	0	—	—	4	6	2	1	0	0	—			
合計 (124科目)				—	—	63	152	2	—	—	4	7	2	1	0	94	—	
学位又は称号				学位又は学科の分野				工学関係										
卒業要件及び履修方法								授業期間等										
総合科目17単位、基礎科目13単位、外国語科目10単位、データサイエンスリテラシー科目2単位、キャリア形成科目1単位、専門基礎科目、専門共通科目及び専門科目から81単位を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：30単位(学期))								1学年の学期区分				2期						
								1学期の授業期間				15週						
								1時限の授業時間				90分						

教育課程等の概要																	
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科機械システム工学専攻（博士前期課程））																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員以外の教員	
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							2	共同		
	科学技術論	1・2後		2			○			1							
	小計（2科目）			—	4	0	0	—	—	1	0	0	0	0		2	
選択 必修 MOT	技術経営論Ⅰ	1・2前	/	2			○							4	1科目2単位 オムニバス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可		
	地域産業論	1・2後		2			○							1			
	技術経営論Ⅱ	1・2前		2			○							1			
	創造性開発研究	1・2後		2			○							1			
	小計（4科目）			—	0	8	0	—	—	0	0	0	0	0		7	
選択	熱流体工学	数理科学	1・2前	/	2			○			1				オムニバス オムニバス 共同		
		エネルギー移動・変換工学特論	1・2後		2			○			1	1					
		熱流体力学特論	1・2後		2			○			1	1					
		熱工学特論	1・2後		2			○			1	1	1				
	小計（4科目）		—		0	8	0	—	—	4	3	1	0	0	0		
	個体力学・設計生産工学	CAD/CAM特論	1・2後		/	2			○			1				オムニバス	
		固体力学特論	1・2前			2			○			1	1	1			
		設計生産工学特論	1・2後			2			○					1			
	小計（3科目）		—			0	6	0	—	—	2	1	2	0	0	0	
	材料設計加工工学	高分子・複合材料学	1・2前			/	2			○			2	1			オムニバス 共同
金属構造材料学		1・2後	2					○			1	1					
小計（2科目）			—	0			4	0	—	—	3	2	0	0	0		
専門基礎	熱流体工学基礎	1・2前	/	2					○			1		1		共同 オムニバス	
	固体力学・設計生産工学基礎	1・2前		2					○				1				
	材料設計加工工学基礎	1・2前		2					○			2					
	小計（3科目）			—	0		6	0	—	—	3	1	1	0	0		0
必修 演習・研究	機械システム工学特別演習Ⅰ	1通		/	2					○		9	7	3		共同 オムニバス	
	機械システム工学特別演習Ⅱ	2通			2					○		9	7	3			
	機械システム工学特別研究	1～2通			8					○		9	7	3			
	小計（3科目）				—	12	0	0	—	—	9	7	3	0	0		0
合計（21科目）					—	16	32	0	—	—	9	7	3	0	0	9	
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等									
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を3科目6単位まで修了要件単位に算入することができる。								1学年の学期区分			2期						
								1学期の授業時間			15週						
								1時限の授業時間			90分						

（注）

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとす場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科知能ロボット工学専攻（博士前期課程））																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外（助手を除く）の教員	
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							2	共同		
	科学技術論	1・2後		2			○							1			
	小計（2科目）			—	4	0	0	—		0	0	0	0	0		3	
選択 必修 MOT	技術経営論Ⅰ	1・2前	/		2		○							4	1科目2単位 オムニバス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可		
	地域産業論	1・2後			2		○							1			
	技術経営論Ⅱ	1・2前			2		○			1							
	創造性開発研究	1・2後			2		○							1			
	小計（4科目）			—	0	8	0	—		0	1	0	0	0		6	
選択 工学	ロボット運動制御	1・2前	/		2		○			1					オムニバス		
	マイクロセンサ工学	1・2後			2		○				1						
	マイクロロボティクス	1・2後			2		○				1						
	小計（3科目）			—	0	6	0	—		1	2	0	0	0		0	
	知的インテリジェンス工学	1・2後		/		2		○				1					オムニバス
	認知情報科学	1・2後				2		○				1					
	聴覚情報処理	1・2前				2		○			1		1				
	パターン認識システム	1・2前				2		○					1				
	生体電磁環境工学	1・2前				2		○			1						
	計算論的神経科学	1・2後				2		○				1					
	応用統計学	1・2後			2		○				1						
	小計（6科目）			—	0	12	0	—		2	3	2	0	0		0	
	知的センシング工学	1・2前		/		2		○			1						オムニバス
データ解析論	1・2前		2			○			1								
先端材料加工学	1・2前		2			○											
工業計量学	1・2後		2			○				1							
光センシング法	1・2前		2			○			1	1	1						
小計（4科目）		—	0	8	0	—		3	2	1	0	0	0				
知能情報システム工学	1・2後	/		2		○			1	1				オムニバス			
知能情報工学	1・2後			2		○			1	1							
ヒューマンロボットシステム	1・2後			2		○											
知的学習システム	1・2前			2		○											
センサロボット工学	1・2前			2		○				1							
小計（4科目）		—	0	8	0	—		3	2	0	0	0	0				
必修 演習・研究	知能ロボット工学特別演習Ⅰ	1通	/	2				○		9	9	5					
	知能ロボット工学特別演習Ⅱ	2通		2				○		9	9	5					
	知能ロボット工学特別研究	1～2通		8				○		9	9	5					
	小計（3科目）			—	12	0	0	—		9	9	5	0	0		0	
合計（26科目）					16	42	0	—		9	9	5	0	0	9		
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係										
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。また、選択の中から、前期開講科目のうち3科目6単位以上、後期開講科目のうち3科目6単位以上を必ず修得しなければならない。 ただし、論文準修士称号保有者については、選択必修のMOTの科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。										1学年の学期区分			2期				
										1学期の授業時間			15週				
										1時限の授業時間			90分				

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学期の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。
  - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科電子・情報工学専攻（博士前期課程））															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							2	共同
	科学技術論	1・2後		2			○							1	
	小計（2科目）		-	4	0	0	-		0	0	0	0	0	3	
選択 必修 MOT	技術経営論Ⅰ	1・2前	/		2		○							4	1科目2単位 オムニバス 以上必修 1科目2単位のみ 修了要件に算入可
	地域産業論	1・2後		2		○								1	
	技術経営論Ⅱ	1・2前		2		○						1		1	
	創造性開発研究	1・2後		2		○								0	
	小計（4科目）			-	0	8	0	-		0	0	1	0	0	
専門 基礎	情報工学基礎	1・2前	/		2		○			8	2	4			オムニバス オムニバス
	電子工学基礎	1・2前		2		○			3	7	2				
情報 基礎 工学	ビッグデータ数理科学	1・2前	/		2		○			1	1				オムニバス オムニバス
	IoT・コンテキスト理解	1・2前		2		○			2						
電子 デバイス 工学	集積回路特論	1・2前	/		2		○			1		1			共同 共同
	パワーデバイス工学	1・2前		2		○			1	1					
電子 デバイス 工学	薄膜電子デバイス工学	1・2後	/		2		○				1				共同 共同
	機能材料物性特論	1・2前		2		○				2					
電子 デバイス 工学	量子マテリアル工学	1・2後	/		2		○			2	1				共同 共同
	小計（5科目）			-	0	10	0	-		4	5	1	0	0	
電子 通信 システム 工学	電波工学特論	1・2後	/		2		○			1	1				共同 共同 共同 共同
	システム制御論	1・2後		2		○				1					
	光計測工学	1・2後		2		○				1	1				
	情報メディア通信工学	1・2後		2		○						1			
	小計（4科目）			-	0	8	0	-		2	3	1	0	0	
情報 応用 工学	人間情報工学	1・2後	/		2		○			1					オムニバス オムニバス
	システム開発工学	1・2前		2		○			1	1	1				
	システムモデリング	1・2前		2		○			2	1					
	小計（3科目）			-	0	6	0	-		4	2	1	0	0	
演習・ 研究	電子・情報工学特別演習Ⅰ	1通	/	2			○			15	11	7			
	電子・情報工学特別演習Ⅱ	2通		2			○			15	11	7			
	電子・情報工学特別研究	1～2通		8			○			15	11	7			
	小計（3科目）			-	12	0	0	-		15	11	7	0	0	
合計（25科目）				-	-	16	40	0	-	15	11	7	0	0	9
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文準修士称号保有者については、選択必修のMOTの科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業時間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

(注)

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等

- に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
  - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
  - 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
  - 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
  - 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
  - 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
  - 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
  - 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
  - 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
    - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
    - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
    - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
  - 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科環境・社会基盤工学専攻（博士前期課程））																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
必修 教養	高度実践英語	1・2前	/	2			○							2	共同	
	科学技術論	1・2後		2			○							1		
	小計（2科目）		—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	3		
選択 必修	MOT	1・2前	/		2		○				2	1				1
		1・2後			2		○									1
		1・2前			2		○									1
		1・2後			2		○									1
		小計（4科目）			—	0	8	0	—		0	2	1	0		0
選択 環境工学	環境モデリング	1・2前	/		2		○			1						
	土壌水圏科学	1・2前			2		○				1					
	大気物理化学	1・2後			2		○									
	環境リスク管理工学	1・2後			2		○					1				
	環境応用生態学	1・2後			2		○					1				
	大気環境学	1・2前			2		○					1				
	廃棄物資源学	1・2前			2		○					1				
	物質循環解析学	1・2後			2		○					1				
	環境技術システム論	1・2前			2		○			1						
		小計（9科目）			—	0	18	0	—		3	6	0	0	0	0
選択 社会基盤工学	水資源システム論	1・2前	/		2		○					1				
	環境エネルギーシステム学	1・2後			2		○				1					
	環境政策学	1・2後			2		○				1					
	応用土質工学	1・2後			2		○			1					1	
	応用コンクリート工学	1・2前			2		○			1						
	環境計画論	1・2前			2		○									
	流域保全学	1・2後			2		○					1				
	土木事業施工論	1・2前			2		○					1				
	建設マネジメント論	1・2後			2		○					1				
		小計（10科目）			—	0	20	0	—		4	5	1	0	0	1
選択 専攻共通	インターンシップ	1・2前	/		2			○		1		1				
					2	0				1	0	1	0	0	0	
必修 演習・研究	環境・社会基盤工学特別演習Ⅰ	1通	/	2				○		7	11	2				
	環境・社会基盤工学特別演習Ⅱ	2通		2				○		7	11	2				
	環境・社会基盤工学特別研究	1～2通		8				○		7	11	2				
		小計（3科目）		—	12	0	0	—		7	11	2	0	0	0	
合計（29科目）					16	48	0	—		7	11	2	0	0	8	
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。										1学年の学期区分		2期				
										1学期の授業時間		15週				
										1時限の授業時間		90分				

（注）

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。

- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
  - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
  - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校を学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																
新設学部等の基礎となる研究科等（工学研究科生物・医薬品工学専攻（博士前期課程））																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
必修	高度実践英語	1・2前	/	2			○								2	
	科学技術論	1・2後		2			○								1	
	小計（2科目）			—	4	0	0	—		0	0	0	0	0	0	3
選択必修	技術経営論Ⅰ	1・2前	/		2		○								4	
	地域産業論	1・2後			2		○			1						
	技術経営論Ⅱ	1・2前			2		○								1	
	創造性開発研究	1・2後			2		○								1	
	小計（4科目）			—	0	8	0	—		1	0	0	0	0	0	6
選択	酵素化学工学	1・2前	/		2		○			1						
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	0	0	0	0	
	応用生物プロセス学	1・2後			2		○			1		2				共同
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	2	0	0	0	
	微生物工学	1・2前			2		○			1	1	1				共同
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	1	1	0	0	0	
	生物有機化学	1・2後			2		○			1		1				共同
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0	
	機能性食品工学	1・2前			2		○			1		1				共同
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0	
	植物機能工学	1・2後			2		○			1		1				共同
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0	
	応用生物情報学	1・2前			2		○			1		1				共同
	小計（1科目）			—	0	2	0	—		1	0	1	0	0	0	
	製薬化学工学1	1・2前			2		○			2		1				共同
	製薬化学工学2	1・2後			2		○			2	1					オムニバス
	小計（2科目）			—	0	4	0	—		4	1	1	0	0	0	
	バイオ医薬品工学1	1・2前			2		○			2	1					共同
	バイオ医薬品工学2	1・2後			2		○			1	2					オムニバス
	小計（2科目）			—	0	4	0	—		3	3	0	0	0	0	
必修・研究	生物・医薬品工学特別演習Ⅰ	1通	/	2			○		14	5	8					
	生物・医薬品工学特別演習Ⅱ	2通		2			○		14	5	8					
	生物・医薬品工学特別研究	1～2通		8			○		14	5	8					
	小計（3科目）			—	12	0	0	—		14	5	8	0	0	0	
合計（20科目）					16	30	0	—		14	5	8	0	0	9	
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
博士前期課程に2年以上在学して当該期間中に32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。 なお、選択必修のMOTの4科目のうち、1科目2単位を選択必修とし、1科目2単位のみ修了要件に算入することができる。 ただし、論文準修士称号保有者については、MOT部門の科目を4科目8単位まで修了要件単位に算入することができる。							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業時間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

（注）

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行

- おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
  - 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
  - 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
  - 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
  - 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
  - 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
  - 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
  - 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
  - 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
    - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
    - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
    - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
  - 11 高等専門学校学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
（工学研究科電気電子工学専攻（博士前期課程））				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
必修	高度実践英語		本講義では、科学分野や工学分野で必要な高度で専門的な英語技術について実践的な演習を行う。本講義では、記述するための技術と同様に、考えを理解し、発表するための口述技術の上達を重要視する。本講義では、英語を用いて対話形式で行う。本講義では、講義とクラス活動を通して、科学分野の英語での講義やプレゼンテーションを理解すること、英語でアブストラクトを記述すること、英語でプレゼンテーションを行い、質問に応えられることを目標とする。	
	科学技術論		主に科学技術社会論や科学史の観点から、科学技術と社会の相互的な関係について理解することを目指す。特に、科学技術の社会導入に際し、人間や環境に対する負の影響を抑制するために必要な事項を学ぶ。そのため、科学者ないし技術者の社会的責任、専門家と市民の協働などの観点から、歴史的ないし現代的な問題を分析する。	
	MOT 技術経営概論		技術系企業において、現在の急速に移り変わる市場変化に対応し市場での優位性を確保するためには、継続的に技術力を向上させるとともに、その技術力を事業経営に結びつけて競争力を向上させていかなければならない。上記の視点から技術経営についてのエッセンスを講義する。いわゆるテクノロジマネージメント（MOT）の内容の他に、場合によっては地域産業論や創造性開発研究といった視点を織り交ぜて講義を展開する。	
選択	電子デバイス工学基礎		<p>（概要） 本専攻で特別演習及び特別研究を実施するにあたり、修得しておくべき重要な電子工学関連分野の事項がいくつかある。本講義ではパワーデバイス、半導体集積回路、誘電材料、半導体材料および強相関電子系材料の各分野を研究領域とする教員が、その分野に関連する技術事項を講義する。具体的な講義内容は以下のとおりである。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 畠山 哲夫／3回） ①パワーデバイスに関する基礎知識と技術動向</p> <p>（1 吉河 武文／3回） ②集積回路（IC）の設計開発に必要なデバイス知識と基礎的事項</p> <p>（7 藤井 正／3回） ③誘電材料の基礎知識から、強誘電体による機能デバイス応用まで</p> <p>（12 清水 直／3回） ④半導体材料の基礎知識から電界効果デバイスの動作原理の理解へ</p> <p>（14 田縁 俊光／3回） ⑤低次元物質に関する基礎知識からナノデバイスの動作特性まで</p>	オムニバス方式
	専門基礎 光・電波・システム工学基礎		<p>（概要） 本専攻で特別演習及び特別研究を実施するにあたり、修得しておくべき重要な電子工学関連分野の事項がいくつかある。本講義では電波工学・光学および制御工学の各部門に所属する教員が、各自の専門分野に関連する特に重要な事項を分担して講義する。具体的な講義内容は以下のとおりである。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 石坂 圭吾／5回） ①電波科学・無線通信研究分野における重要技術と最新動向</p> <p>（4 大寺 康夫／5回） ②光計測分野における重要事項とその最新動向、光学材料とその応用技術</p> <p>（9 小島 千昭／5回） ③システム制御分野におけるデジタル制御の重要事項、基礎理論と最新動向</p>	オムニバス方式
	電子工学データ処理・解析基礎		<p>（概要） 本専攻で特別演習及び特別研究を実施するにあたり、修得しておくべき重要な電子工学関連分野の事項がいくつかある。本講義では電子デバイス工学・電子通信システム工学の各部門に所属する教員が、各自の専門分野に関連する特に基礎的かつ重要なデータ処理・解析手法を分担して解説する。具体的な講義内容は以下のとおりである。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（13 岡本 大／4回） ①プログラミングによるデータ処理の自動化</p> <p>（16 岸田 亮／4回） ②集積回路分野での統計処理方法</p> <p>（8 三宅 壮聡／4回） ③電磁波の数学的な取り扱いについて</p> <p>（10 高屋 智久／3回） ④光計測工学分野におけるスペクトル定量解析に関する重要事項と最近の動向</p>	オムニバス方式

電子デバイス工学 選択	集積回路特論	<p>(概要) 集積回路の進展は著しく、システム全体が集積回路に集積され、様々な電子機器の特徴は集積回路によって決まると言っても過言ではない。本講義では、集積回路設計を題材として、デジタル回路とアナログ回路の両面で講義と演習を実施し、集積回路に対する理解を促進する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 岸田 亮/8回) ①デジタル回路について、講義を実施するとともに、論理回路設計などのデジタル回路の演習を行う。</p> <p>(1 吉河 武文/7回) ②アナログ回路について、講義を実施するとともに、増幅器設計などのアナログ回路の演習を行う。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間
	パワーデバイス工学	<p>(概要) パワーデバイスは、パワーエレクトロニクス機器に用いる半導体素子である。電力制御に最適化されており、低抵抗、高耐圧を特徴とする。本講義では、パワーデバイスを用いた電力制御回路について学び、代表的なパワーデバイスの動作原理について学ぶ。具体的な講義内容は以下のとおりである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 畠山 哲夫/7回) ①電力変換回路の基礎を理解する。</p> <p>(13 岡本 大/8回) ②ユニポーラパワーデバイスの動作原理を理解する。 ③バイポーラパワーデバイスの動作原理を理解する。 ④パワーデバイスのスイッチング特性を理解する。</p>	オムニバス方式
	ナノマテリアルデバイス特論	<p>(概要) シリコン半導体デバイスを超越する性能を目指し、基礎と応用の両面から、様々な新材料を用いたデバイスの開発が世界中で進められている。本講義では特に、原子層薄膜やナノチューブ、量子ドットといった低次元化されたナノマテリアルを用いた電界効果型トランジスタに関して、「動作原理の基本」を講義し、次に、「材料の特異な性質とその物理的背景」や「ナノデバイス化特有の性質」について議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 清水 直/8回) 半導体の基礎の復習から始め、半導体素子の基本構造であるpn接合と金属半導体接合、そして電界効果型トランジスタの動作原理を詳細に議論する。</p> <p>(14 田縁 俊光/7回) グラフェン、カーボンナノチューブ、遷移金属カルコゲナイド等の材料が持つ特異な物理的特性を解説し、その量子的な特性を活かしたナノデバイスあるいは微細化によって初めて発現する機能性を紹介し、将来的に期待される最先端デバイスについて議論する。</p>	オムニバス方式
	機能材料物性特論	<p>(概要) 強誘電体、圧電体の基礎物性とデバイス応用、およびx線粉末回折について講義を行う。前半は強誘電体・圧電体の物性と応用について学ぶ。強誘電体材料は、圧電性、焦電性、電気光学効果等を有し、機能性電子材料として広く研究され、各種センサ・アクチュエータなどが実用化されている。後半は、材料研究における試料評価法として重要なx線粉末回折について学ぶ。材料研究において作製した試料の評価は必須であるが、x線粉末回折は試料品質の簡易的な評価から、精密な結晶構造解析まで使える有用な測定方法である。具体的な講義内容は次の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 藤井 正/8回) ①強誘電体の基礎物性 ②圧電体の基礎物性、圧電方程式、圧電テンソル計算 ③強誘電体デバイス、圧電体デバイス</p> <p>(3 福原 忠/7回) ④結晶構造の表現方法と逆格子空間 ⑤結晶によるx線の反射とx線粉末回折の強度 ⑥Rietveld解析法</p>	オムニバス方式
	量子マテリアル工学	<p>(概要) 量子力学的な効果の強く効いた物質、いわば「量子マテリアル」について、量子力学と物性物理の観点から講義を行う。量子力学の基礎の復習から始め、原子における電子配置がもたらす原子の周期律と各原子の特性、ならびに物質中での原子のナノ配列構造(=結晶構造)を記述するために必要な結晶点群・空間群について概観する。後半では、統計力学の基礎を先に講義し、前半の知識を組み合わせ自由電子論および固体のバンド理論を導く。具体的な講義内容は以下の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 谷田 博司/7回) ①井戸型模型と水素原子模型 ②電子配置と周期律</p> <p>(5 室 裕司/8回) ③結晶点群と結晶空間群 ④統計力学の基礎からバンド理論へ</p>	オムニバス方式

選択	電子通信システム工学	電波工学特論	<p>(概要) 本講義では、前半は電磁波動現象における理論的な解析方法について講義する。後半は電磁波計測技術について、観測領域および観測周波数帯における具体的な観測方法について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 三宅 壯聡/7回) 現実の様々な電磁波動現象は複雑な非線形現象であり、そのような複雑な現象を研究・解析する手法としてマクスウェルの方程式を用いた数値的解法および電磁界解析方法について講義する。</p> <p>(6 石坂 圭吾/8回) 次に、電磁波の様々な計測技術および電磁波に関する実用的な応用について解説する。電界・磁界計測用のアンテナの測定原理、測定環境に応じた電磁波測定技術について学習し、電磁波測定に関する実用的な知識を身に付ける。また、最新の無線通信に関する動向を紹介する。</p>	オムニバス方式
		システム制御論	<p>本講義では、超スマート社会において多数のエージェント（電子機器、ロボットなどのモノや人間などの意思決定主体を一般化した総称）から構成されるマルチエージェントシステムのモデリングと制御に関する内容を行う。はじめに、電力システムや通信ネットワークにおけるマルチエージェントシステムの制御の具体例を提示し、本講義の導入を行う。さらに、数学的な準備として代数的グラフ理論を概観し、マルチエージェントシステムの合意制御について説明する。また、コンピュータやインターネットを用いた制御を想定し、デジタル制御による枠組みへと発展させる。さらに、単一のシステムに対する最適化の基礎的事項を取り扱い、マルチエージェントシステムにおける分散最適化へと展開する。最後に、マルチエージェントシステムの実用として、電力システムのモデリングとその分散最適化に基づく制御を取り扱い、実例を含めた最新の動向を紹介する。</p>	
		光計測工学	<p>(概要) 分光計測および分光画像計測に関連する理論と応用について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 大寺 康夫/8回) 分光画像計測において中心的な役割を果たすイメージセンサーについて、その電氣的及び光学的諸特性、および付随する雑音について解説する。また雑音の中でも特に重要な光ショット雑音についてその性質と取り扱い方法について講義する。</p> <p>(10 高屋 智久/7回) レーザを用いた計測法、および光のスペクトル計測と物性評価への応用について解説する。レーザ光のコヒーレント性を利用する高精度3次元形状計測法、およびレーザ分光スペクトル（発光・散乱）による物性計測法を学習し、これらの計測法の原理を修得する。</p>	オムニバス方式
		通信工学特論	<p>本講義では、現代社会における重要な情報基盤となっている、通信ネットワークを構築する際に用いられる基本技術とその実装に関する内容を扱う。</p> <p>通信プロトコルの学習を通じて、接続の確立およびその確認方法、伝送する情報の符号化や伝送誤りの検出などについて学び、発生した通信障害の原因究明のための計測方法について理解を深める。</p> <p>通信プロトコルTCP/IPを用いたアプリケーションの開発実習を通じて、プロトコルの実装について学び、アプリケーションが備えるべき通信機能について議論する。</p>	
必修	演習・研究	電気電子工学特別演習 I	<p>(概要) 研究テーマの遂行に必要な目標達成プロセスを発見する能力を養成することを目的として、各研究テーマで発生する問題の解決について、セミナー形式による演習・発表・討論を行う。</p> <p>具体的には、指導教員より提示される研究指導計画書に基づき演習を進める。さらに研究室で行われるセミナーにおいて、テキスト、基本文献等の輪読、発表および質疑を行うと共に、中間発表で研究の進捗と計画を発表する。</p> <p>(1 吉河 武文) 電子回路、特に集積回路の設計技術に関する研究 (2 畠山 哲夫) SiCを用いた超低損失パワーデバイスに関する研究 (3 福原 忠) 物理学(磁性・伝導)に関する研究 (4 大寺 康夫) マルチスペクトル・イメージングシステムに関する研究 (5 室 裕司) 希土類物性工学に関する研究 (6 石坂 圭吾) 電磁波観測技術とその応用に関する研究 (7 藤井 正) 機能性電子材料の作製及び新規作製プロセスの研究 (8 三宅 壯聡) 宇宙プラズマ電磁波動現象に関する研究 (9 小島 千昭) システム制御理論とその電力・エネルギーへの応用に関する研究 (10 高屋 智久) 先端分光計測技術の開発と非破壊分析への応用に関する研究 (11 谷田 博司) 創発物性工学に関する研究 (12 清水 直) ナノ材料の作製とその電子物性に関する研究 (13 岡本 大) SiCを用いたパワーデバイスの性能向上に関する研究 (14 田縁 俊光) 原子層薄膜デバイス開拓とその量子伝導の研究 (15 小林 香) ネットワークの経路制御に関する研究 (16 岸田 亮) 回路設計技術による集積回路の高性能化に関する研究</p>	

必修	演習・研究	電気電子工学特別演習Ⅱ	<p>(概要) 修士論文の作成に必要となる研究方法を見出す能力や問題解決能力の養成を目的として、具体的研究課題(研究テーマ)に関連する研究手法や研究解決手法について演習・討論を行う。 具体的には、指導教員より提示される研究指導計画書に基づき演習を進める。さらに研究室で行われるセミナーにおいて、文献の発表、研究の中間報告などを行い、討論する。</p> <p>(1 吉河 武文) 電子回路、特に集積回路の設計技術に関する研究 (2 畠山 哲夫) SiCを用いた超低損失パワーデバイスに関する研究 (3 福原 忠) 物理学(磁性・伝導)に関する研究 (4 大寺 康夫) マルチスペクトル・イメージングシステムに関する研究 (5 室 裕司) 希土類物性工学に関する研究 (6 石坂 圭吾) 電磁波観測技術とその応用に関する研究 (7 藤井 正) 機能性電子材料の作製及び新規作製プロセスの研究 (8 三宅 壯聡) 宇宙プラズマ電磁波動現象に関する研究 (9 小島 千昭) システム制御理論とその電力・エネルギーへの応用に関する研究 (10 高屋 智久) 先端分光計測技術の開発と非破壊分析への応用に関する研究 (11 谷田 博司) 創発物性工学に関する研究 (12 清水 直) ナノ材料の作製とその電子物性に関する研究 (13 岡本 大) SiCを用いたパワーデバイスの性能向上に関する研究 (14 田縁 俊光) 原子層薄膜デバイス開拓とその量子伝導の研究 (15 小林 香) ネットワークの経路制御に関する研究 (16 岸田 亮) 回路設計技術による集積回路の高性能化に関する研究</p>	
		電気電子工学特別研究	<p>(概要) 電気電子工学専攻の理念・教育目標に沿った内容の研究テーマを設定し、研究を行い、修士論文としてまとめる能力と研究成果を得る。 具体的には、指導教員より提示される研究指導計画書に基づき研究を進める。</p> <p>(1 吉河 武文) 電子回路、特に集積回路の設計技術に関する研究 (2 畠山 哲夫) SiCを用いた超低損失パワーデバイスに関する研究 (3 福原 忠) 物理学(磁性・伝導)に関する研究 (4 大寺 康夫) マルチスペクトル・イメージングシステムに関する研究 (5 室 裕司) 希土類物性工学に関する研究 (6 石坂 圭吾) 電磁波観測技術とその応用に関する研究 (7 藤井 正) 機能性電子材料の作製及び新規作製プロセスの研究 (8 三宅 壯聡) 宇宙プラズマ電磁波動現象に関する研究 (9 小島 千昭) システム制御理論とその電力・エネルギーへの応用に関する研究 (10 高屋 智久) 先端分光計測技術の開発と非破壊分析への応用に関する研究 (11 谷田 博司) 創発物性工学に関する研究 (12 清水 直) ナノ材料の作製とその電子物性に関する研究 (13 岡本 大) SiCを用いたパワーデバイスの性能向上に関する研究 (14 田縁 俊光) 原子層薄膜デバイス開拓とその量子伝導の研究 (15 小林 香) ネットワークの経路制御に関する研究 (16 岸田 亮) 回路設計技術による集積回路の高性能化に関する研究</p>	

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

公立大学法人富山県立大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度（2025年度）	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度（2026年度）	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山県立大学				富山県立大学				
工学部				工学部				
機械システム工学科	60	—	240	機械システム工学科	60	—	240	
電気電子工学科	45	—	180	電気電子工学科	45	—	180	
環境・社会基盤工学科	55	—	220	環境・社会基盤工学科	55	—	220	
生物工学科	40	—	160	生物工学科	40	—	160	
医薬品工学科	35	—	140	医薬品工学科	35	—	140	
計	235	—	940	計	235	—	940	
情報工学部				情報工学部				
データサイエンス学科	40	—	160	データサイエンス学科	40	—	160	
情報システム工学科	60	—	240	情報システム工学科	60	—	240	
知能ロボット工学科	60	—	240	知能ロボット工学科	60	—	240	
計	160	—	640	計	160	—	640	
看護学部				看護学部				
看護学科	120	—	480	看護学科	120	—	480	
計	120	—	480	計	120	—	480	
学部計				学部計				
学部計	515	—	2,060	学部計	515	—	2,060	
富山県立大学大学院				富山県立大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
博士前期課程				博士前期課程				
機械システム工学専攻	20	—	40	機械システム工学専攻	24	—	48	定員変更(4)
知能ロボット工学専攻	20	—	40	知能ロボット工学専攻	0	—	0	令和8年4月学生募集停止
電子・情報工学専攻	27	—	54	電子・情報工学専攻	0	—	0	令和8年4月学生募集停止
環境・社会基盤工学専攻	15	—	30	環境・社会基盤工学専攻	15	—	30	
生物・医薬品工学専攻	26	—	52	生物・医薬品工学専攻	30	—	60	定員変更(4)
計	108	—	216	計	84	—	168	専攻の設置(届出)
博士後期課程				博士後期課程				
総合工学専攻	10	—	30	総合工学専攻	6	—	18	定員変更(△4)
計	10	—	30	計	6	—	18	
情報工学研究科				情報工学研究科				研究科の設置(届出)
博士前期課程				博士前期課程				
データサイエンス専攻				データサイエンス専攻	14	—	28	
情報システム工学専攻				情報システム工学専攻	24	—	48	
知能ロボット工学専攻				知能ロボット工学専攻	24	—	48	
計				計	62	—	124	
博士後期課程				博士後期課程				
情報工学専攻				情報工学専攻	4	—	12	
計				計	4	—	12	
看護学研究科				看護学研究科				
博士前期課程				博士前期課程				
看護学専攻	10	—	20	看護学専攻	10	—	20	
計	10	—	20	計	10	—	20	
博士後期課程				博士後期課程				
看護学専攻	2	—	6	看護学専攻	2	—	6	
計	2	—	6	計	2	—	6	
大学院計				大学院計				
大学院計	130	—	272	大学院計	168	—	348	
富山県立大学看護学専攻科				富山県立大学看護学専攻科				
公衆衛生看護学専攻	15	—	15	公衆衛生看護学専攻	15	—	15	
助産学専攻	10	—	10	助産学専攻	10	—	10	
看護学専攻科計	25	—	25	看護学専攻科計	25	—	25	